中山町公共施設再配置事業について

令和７年１月

中山町総務広報課　防災安全対策室

再配置事業の目的

将来必要な行政サービスを
安全かつ持続的に提供できるよう
更新すべき公共施設を
長期的な展望に立ち
効率的に整備し
持続できるまちづくりを進める

再配置事業の目的

◆ つまり最大の目的は？

住み続けられるまちをつくる

◆ 再配置事業の役割は？

施設整備の事業化に向けた準備

◆ どんなことをするの？

更新時期が目前に迫った施設だけでなく
公共施設全体の将来を見据えた上で
必要な施設整備についてみんなで考え
公共施設再配置計画にまとめる

再配置事業を進めるに至った背景

◆ 再配置事業を進めるに至った背景は？

1 公共施設の老朽化

2 厳しい財政状況

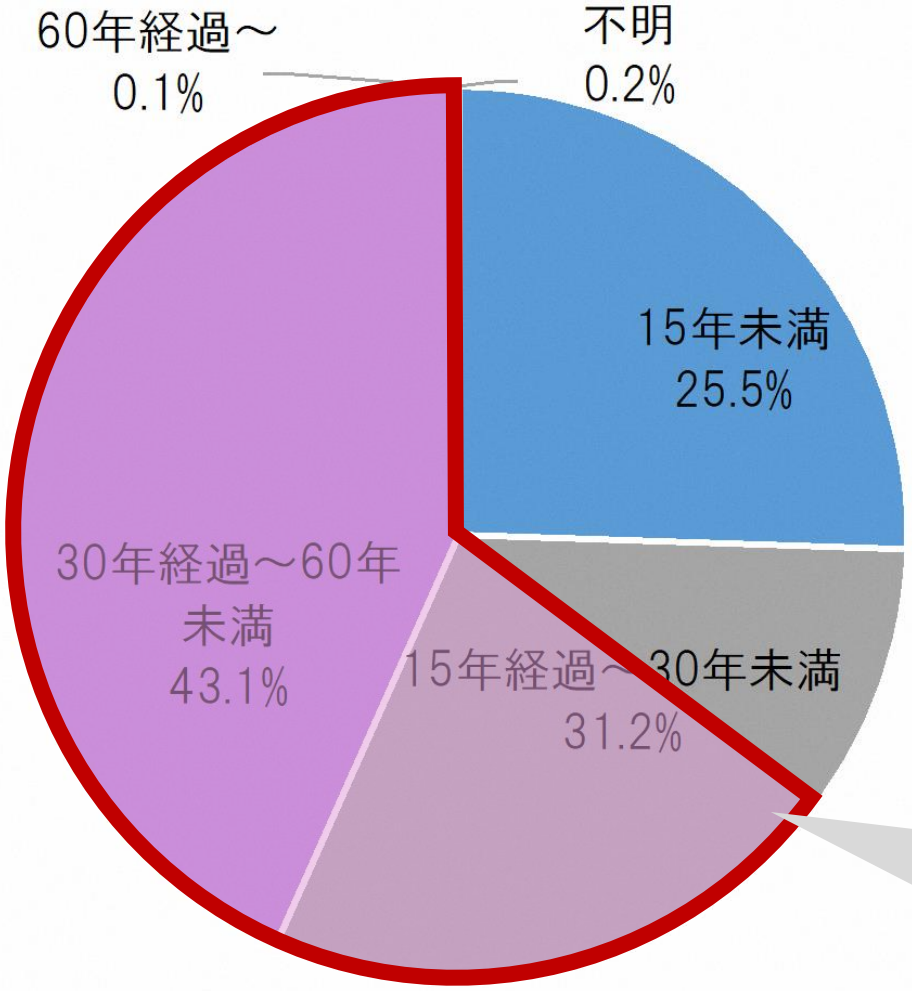
3 人口減少・少子高齢化の進行

4 自然災害の激甚化・多発化

5 デジタル技術の進展

1　公共施設の老朽化

公共施設の経過年数別の延床面積（出典：中山町公共施設等総合発展計画）



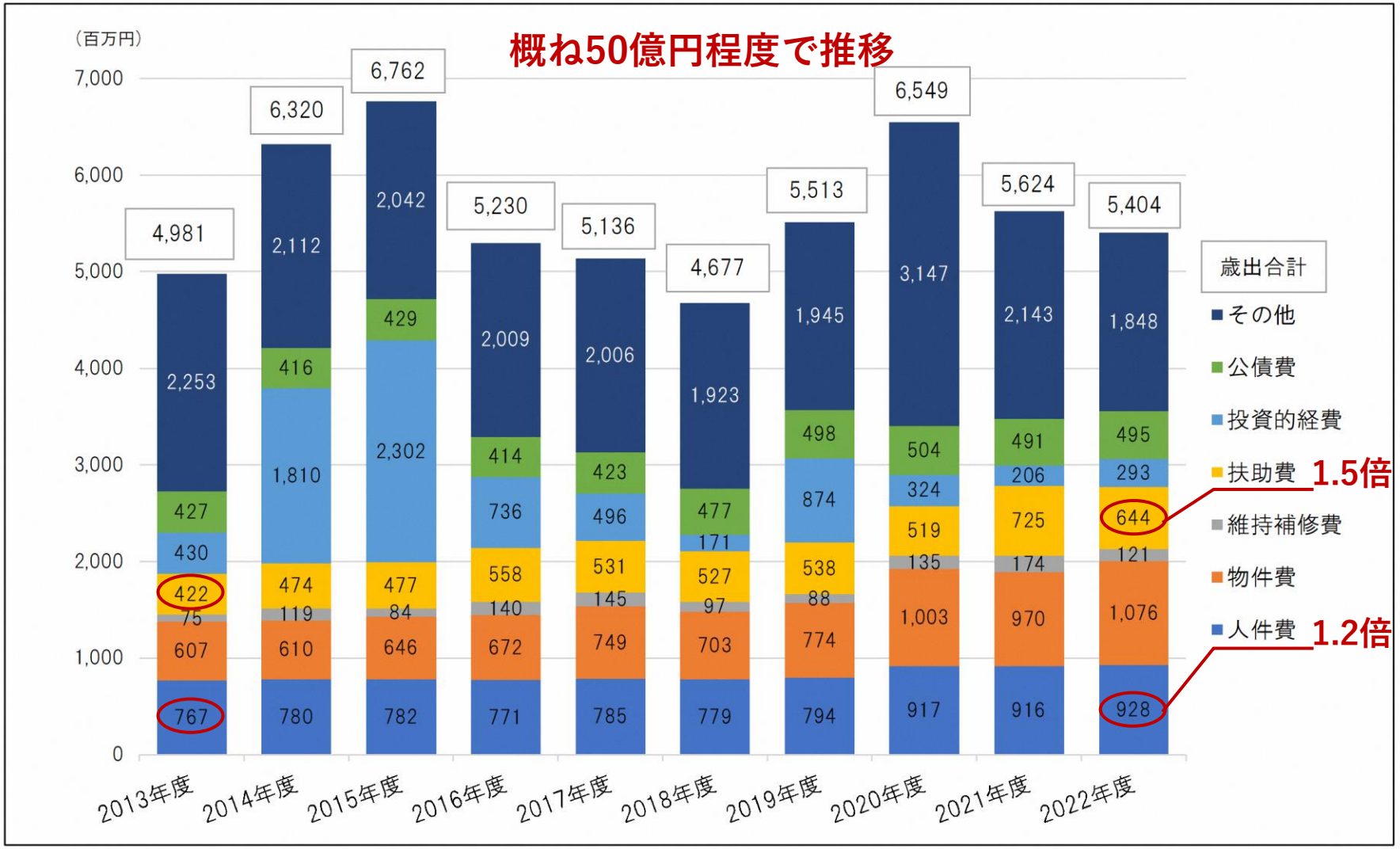
	延床面積（㎡）	構成比
15年未満	13,940.0	25.5%
15年経過～30年未満	17,037.4	31.2%
30年経過～60年未満	23,535.3	43.1%
60年経過～	53.0	0.1%
不明	100.1	0.2%
合計	54,665.7	100.0%

築30年以上
現時点 43.3% ➡ 約3年後 64.0%
（見込み）

古い施設が増えることにより、**更新や改修が必要**になり、
財政的な負担が大きくなることが予想される。

2 財政状況（歳出）

普通会計歳出の推移（出典：総務省市町村決算カード）



扶助費や人件費などの義務的経費が増えると、老朽化対策のための投資的経費や維持補修費を確保することが難しくなる。

2　財政状況（将来の施設更新費用等の見通し）

更新費用等実績額試算額まとめ（出典：中山町公共施設等総合管理計画）

区分	今後の更新費用等３０年間試算額の１年あたりの平均額（３０年間総額）		比較 イ－ア
	長寿命化対策を実施しない場合 ア	長寿命化対策を実施する場合 イ	
公共施設	8.9億円（267.9億円）	6.7億円（201.1億円）	△2.2億円（△66.8億円）

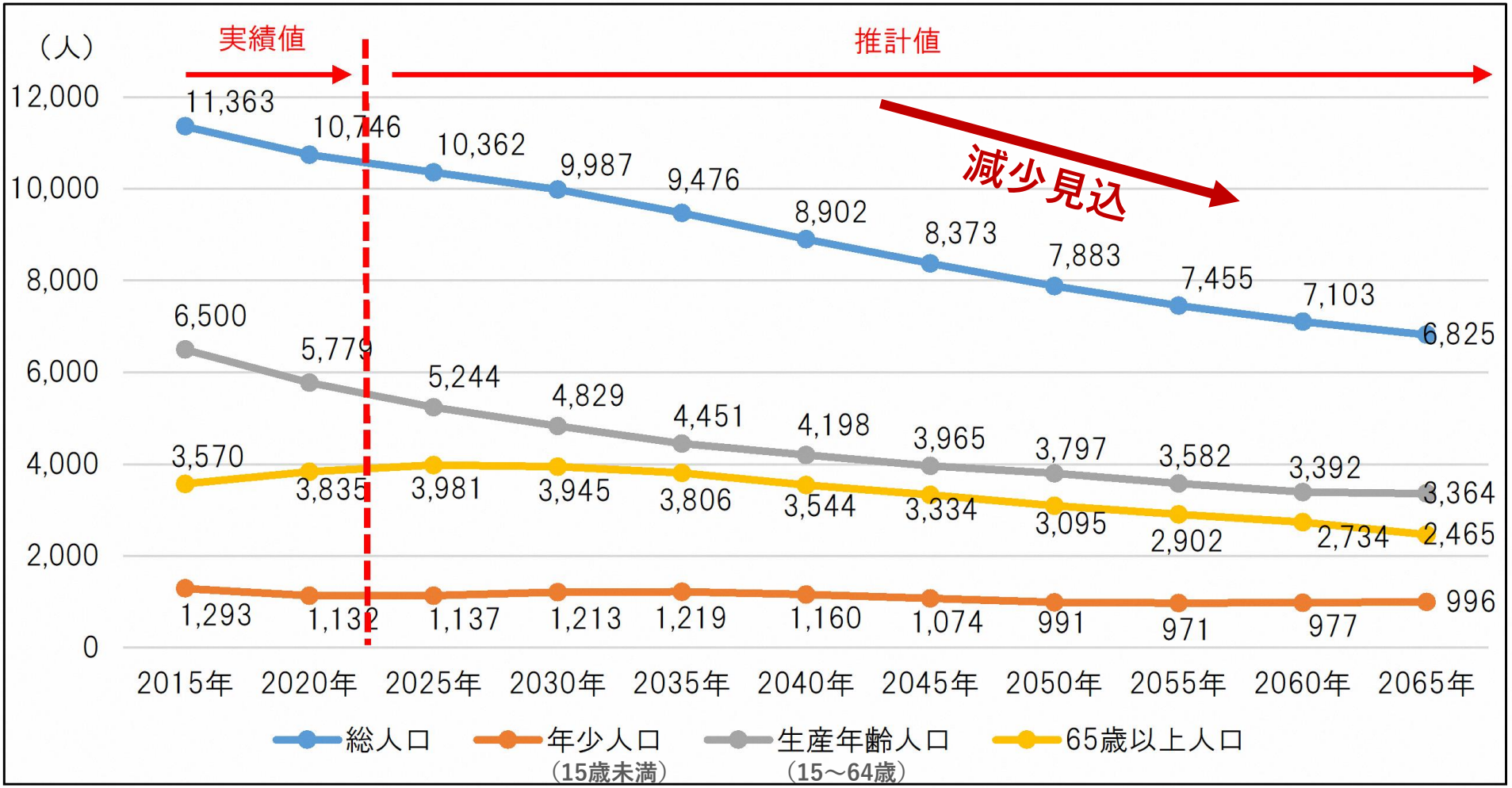
長寿命化対策による削減効果が見込める

約3.2倍

長寿命化対策を実施したとしても、公共施設を現状のまま維持するのは財政的に厳しいことがわかる。

3 人口減少・少子高齢化の進行

年齢３区分別人口の将来展望（出典：第６次中山町総合発展計画）



人口減少 ➡ 利用者数の減少が見込まれる

少子高齢化➡ 公共施設に対するニーズの変化が予想される

4　自然災害の激甚化・多発化

近年の大雨による災害

令和元年台風１９号（東日本台風）

避難勧告（土砂災害警戒）・避難勧告（洪水）
避難所２（避難者46人）

令和２年７月豪雨

町全域に避難指示（土砂災害・洪水）・緊急安全確保
避難所２（避難者872人）・福祉避難所２
床上浸水17・床下浸水104、町道崩壊等14・農道崩壊等23
最上川最高水位16.22m（計画高水位15.96m）

令和４年８月豪雨

浸水想定域世帯に避難指示（洪水）・緊急安全確保（洪水）
避難所１（66人）・福祉避難所１
最上川最高水位15.66m（計画高水位15.96m）

5　デジタル技術の進展

デジタル技術の進展による効果の一例

行政手続きのオンライン化	業務効率化／住民の利便性向上
テレワークの導入	柔軟な働き方への対応／多様な人材の確保
スマートキーの導入	セキュリティの強化／管理者及び住民の利便性向上
キャッシュレス決済の導入	業務効率化／住民の利便性向上

これまでの経過と展開

第6次中山町総合発展計画

公共施設の在り方検討に着手することを明文化

公共施設等総合管理計画

施設の適正管理の考え方（基準）をまとめた

学校施設は
基本長寿命化だが
変動要因への
対応が必要

個別施設計画　　学校施設長寿命化計画

今後も必要となる施設の維持管理方針をまとめた（長寿命化と更新）

公共施設再配置事業　　学校再配置事業

更新とした施設の更新方法をまとめる

総合発展計画での事業化・関連計画等への反映

施設整備を事業化へ

更新予定施設（個別施設計画）

役場庁舎

歴史民俗資料館

旧勤労文化センター

町民プール管理棟

グラウンドゴルフ場
クラブハウス

中央公民館

長崎駅
コミュニティ施設

屋内ゲートボール場

旧情報・物産館

公共施設再配置計画とは

公共施設再配置計画

基本構想
（令和６年度）

再配置の考え方
＝再配置する上で
守りたい大事なこと

施設の方向性
＝公共施設を具体的に
どうしていくか

基本計画
（令和７年度）

今後整備しようとする
公共施設の
機能、規模、
場所、概算事業費等

基本構想策定の流れ

Step1
- ◆ みんなの気づきや課題の共有
- ◆ 新たなニーズや将来見通しの整理

Step2
- ◆ みんなの気づきや課題から再配置の考え方を整理
- ◆ 将来にわたって必要なサービスの整理

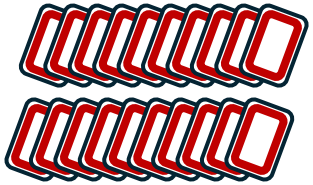
Step3
- ◆ 再配置の考え方に則ったサービスと施設の最適な組み合わせの検討
- ◆ 公共施設の方向性の整理

ワークショップの展開イメージ

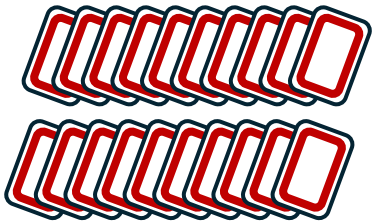
◆ 施設とサービスの置き換え

施設 ＝ 箱

サービス ＝ カード



◆ 全施設及び全サービスを対象とした課題の共有と解決策検討



既存のカードの中から
将来必要なものを選別

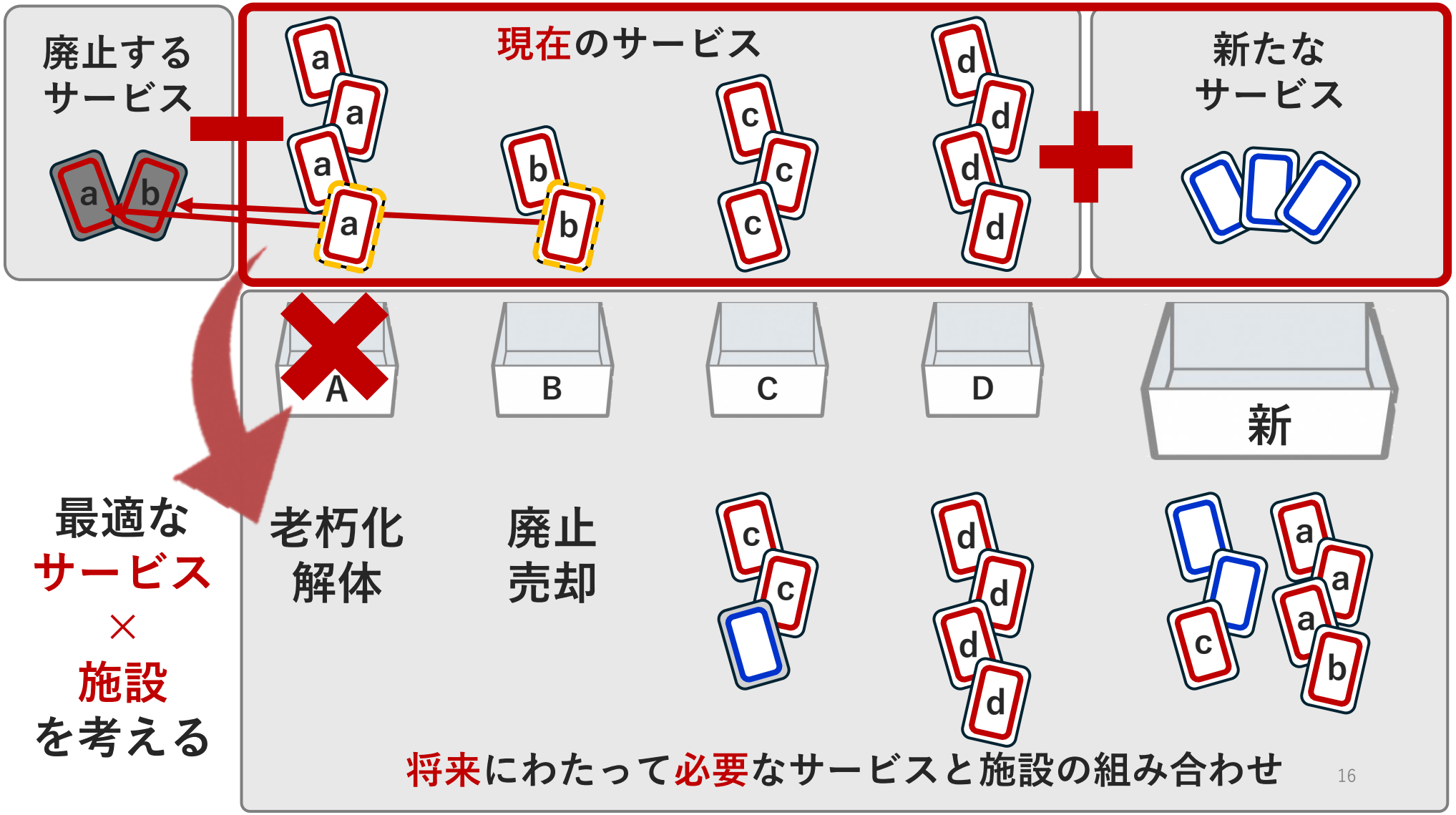
今はないけど、新たに
必要となるカードを作成

意見を深掘りして整理する
・現状はどうなっている？
・どのような影響がある？
・どんな解決策がある？
・施設整備による対応が必要？　…等々

再配置する上で守りたい大事なこと
（＝**再配置の考え方のタネ**）を抽出

ワークショップの展開イメージ

◆ 再配置の考え方や様々な要素を考慮して、カードを入れなおす

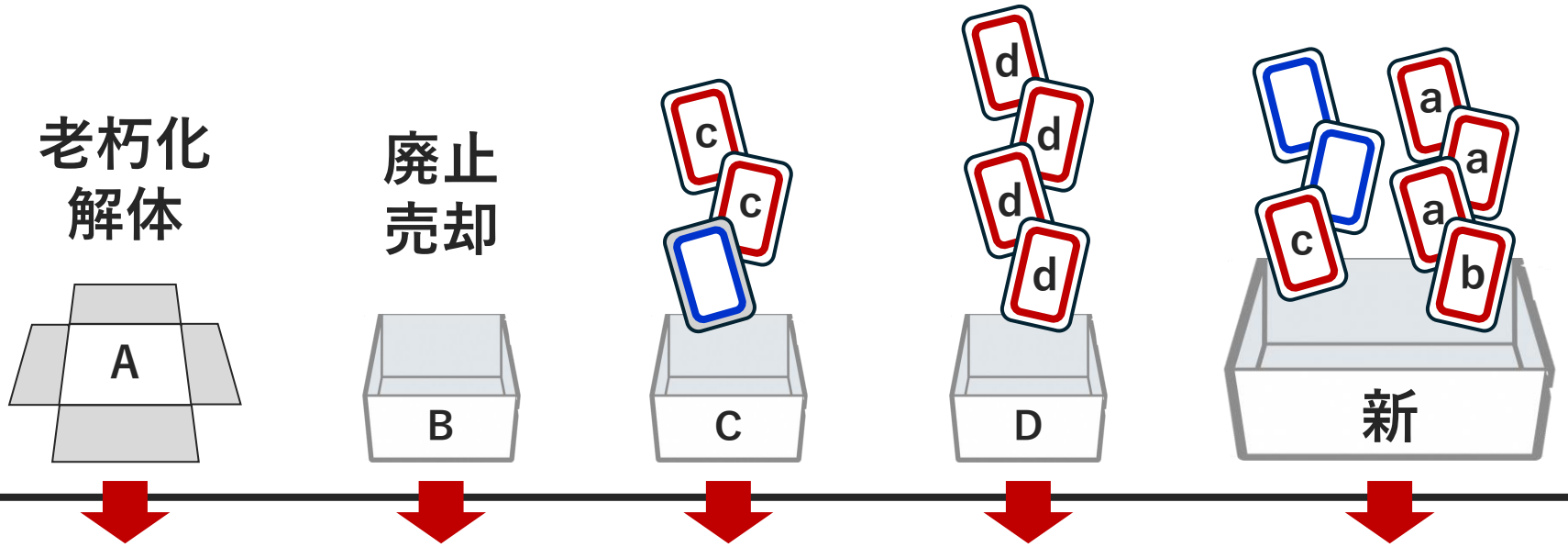


ワークショップの展開イメージ

基本構想案

再配置の考え方

サービスと施設の組み合わせ＝最適化案



最適化案に至った理由も含めた
各施設の方向性